

松本文三郎 まつふみ さんじろう 佛敎史學者、文學博士。明治二年五月加賀國生れ、昭和十九年十二月十八日歿（八六一—一九四一）。號七羊、七羊山人。明治二十六年帝國大學文科大學哲學科卒。インド哲學研究のハ、あトイッ留學。第一高等學校教授も經て、京都帝國大學と文科大學教授、のち學長。帝國學士院會員。儒佛兩敎史の權威。

著書に、『新論理學』（明治二十七年二月十六日金港堂書籍株式會社）、『倫理研究』（諸家合著、東亞協會編、明治四十二年十二月二十日弘道館）、『宗祖觀』（諸家合著、明治四十四年四月二十五日京都・小笠原秀實編刊）、『達磨』（明治四十四年十月十五日國書刊行會）、『佛典の研究』（大正二年三月十日丙午出版社）、『支那佛敎遺物』（大正八年六月二十五日大鏡閣）、『東洋文化の研究』（大正十五年十一月十五日岩波書店）、『佛敎史雜考』（昭和十九年四月十日創元社）等。

